

□Global Flow の制限事項

---

- 1つのDBに2つ以上のWebサーバーを接続する場合、「サーバー保存アクティビティ」に設定する「保存先」は共有するファイルシステムを指定してください。なお、2つのWebサーバーのOSが異なる場合、保存先は共有できません。
- 書類に添付するファイルのファイル名が、ファイルパスを含めて260Byteを超える場合、添付ファイルのファイル名が途中で切れることがあります。
- カテゴリ名に連続した半角英数字が存在し、メニュー表示幅より長い名称となった場合、以下の現象が起きる可能性があります。  
現象を回避するには、カテゴリ名を表示可能文字数内で設定してください。  
メニュー表示幅の表示可能文字数は、27Byte～32Byteです。
  - \* カテゴリ名の表示開始位置がずれることがあります。
  - \* 連続した半角英数字以降の名称が非表示になることがあります。
  - \* メニュー一覧表示フィールドの表示割合が変更されて書類・テンプレート・プロセスを選択することができなくなる可能性があります。
- カテゴリ名に連続した半角英数字が存在すると、テンプレート管理画面から開かれるプロセス一覧やテンプレート一覧の画面が崩れる場合があります。画面の表示幅を調節して回避してください。
- 最新版のActiveXのダウンロードを行う場合、表示されているタブをActiveXのダウンロード中にクリックすると、ActiveXが表示されない場合があります。ダウンロードが完了するまでは、タブの切り替えを行わないでください。ActiveXが表示されない場合は、ブラウザを更新して、再度ActiveXのダウンロードを行ってください。
- StraForm-Xを使用した帳票でキーワード連携を行う場合、機種依存文字、一部の記号を使用するとキーワード連携が正常動作しない場合があります。
- 1.00R04以前に、Doc保存されたワークフローの書類から、アーカイブ形式でデータを出力した場合、経路上に現在処理中のアイコン、処理開始日は表示されません。
- セキュリティマスター管理機能を利用しないモードに設定した場合、セキュリティマスターを利用する設定に変更できません。
- 書類画面でブラウザのメニューにある印刷を使用すると、書類全体が表示されない場合があります。書類全体が表示されない場合は、「印刷(帳票専用)」のリンクから表示させた画面で印刷する必要があります。
- GlobalFamilyのワークフローから移行された帳票をアーカイブ形式で出力すると、表示レイアウトがずれる場合があります。

- ・StraForm-Xを使用した帳票では、<INPUT>タグの属性に"GFLOW-USERINFO"、  
"GFLOW-DATE"を複数設定し、同一の承認アクティビティを指定することはできません。
- ・StraForm-Xを使用した帳票では、<INPUT>タグの属性に"GFLOW-USERINFO"、  
"GFLOW-DATE"を設定した場合、属性の値は指定された承認アクティビティを通過した  
あとに設定されます。
- ・再起案時に、参照元と参照先が異なる帳票の場合、StraForm-Xを使用した帳票では、  
テキストエリアの値を引き継ぐことはできません。
- ・StraForm-Xを使用した帳票では隠し項目を、"GFLOW-COPY-NAME"で引き継ぐことができ  
ません。
- ・再起案時に、StraForm-Xの帳票と通常のHTML帳票を混在して、参照元と参照先の帳票  
に指定することはできません。
- ・一括否認時には、「否認時の注釈入力」のチェックを行う事ができません。
- ・書類の注釈入力で固定書式を末尾に挿入した場合、1行目が改行だけの場合、1行目の  
改行がなくなります。
- ・管理画面から「現アクティビティの変更」を実施した場合、変更先承認者の自分宛の  
書類一覧では現対応者は変更されていますが、書類の経路タブから表示できる経路確  
認画面では、変更前の承認者が表示されます。
- ・通知メール編集画面で、置換文字列を挿入した場合、カーソル位置直前が1つ以上の改  
行だと、改行の前に挿入されます。

---

□Internet Explorer 11(32bit) で使用するうえでの注意事項

---

- ・ActiveXを未使用の場合、Internet Explorerのセキュリティパッチを適用すると拡張  
子 EML、MHTの添付ファイルは内容表示できないことがあります。
- ・ご使用のブラウザにアドインソフトが導入されている場合、ActiveXが正しく動作し  
ない場合があります。
- ・Shift-JISの帳票の場合、帳票の項目が正常に表示されない場合があります。
- ・ローカル環境にダウンロードした添付ファイルの拡張子が「.mht」「.mhtml」の場合、  
ファイル名に「%」を含むと、「無効な構文エラー」が発生し、表示できない場合があ  
ります。参照できるファイル名、エラーとなるファイル名の例を示します。  
参照できるファイル名：%E3%82%B3.mht  
エラーとなるファイル名：%E3.mht
- ・Internet Explorer 11(32bit) をご使用の場合、[ツール]メニュー - [インターネ  
ットオプション] - [セキュリティ]タブの[信頼済みサイト]を選択し、[サイト]ボタ  
ンをクリックし、以下を設定してください。

1. 本システムの Web サイトをゾーンに追加。
2. 「保護モードを有効にする」をチェックしない。(デフォルトはチェックなし)

---

□Microsoft Windows8.1 以降で使用するうえでの注意事項

---

- 書類の注釈入力で固定書式をカーソル位置に挿入した場合、指定した位置に挿入されず、末尾に挿入される場合があります。その場合、手動で直すことができます。

---

□Microsoft Edge (Chromium 版) で使用するうえでの注意事項

---

- 書類画面、テンプレート管理画面で、添付ファイルの表示に ActiveX を使用できません。
  - アクティブディレクトリ認証を利用できません。
  - 環境設定画面で、「ログアウト時の処理」を「画面を閉じる」に設定している環境の場合、ログアウトをクリックしても、ブラウザが閉じないことがあります。その場合は、ブラウザの「×」ボタンで閉じてください。
-